

## 留年、退学・除籍の要因分析

(平成 30 年 7 月 近畿大学 IR センター)

### 1. 退学防止の重要性

退学防止は、今日の大学にとっての重要な課題であり、以下のような問題を内在しています。

- ①「学生が大学に満足していない」という問題
  - ・ 学生支援体制の不備
  - ・ 社会に対する責任の不履行
- ②学生自身のキャリアへ与える問題
  - ・ 大卒としての就職資格・採用要件の逸失
  - ・ 人間関係・社会的評価に関わる損失
- ③大学のイメージ低下
  - ・ 「退学率」の大学間比較が公表され、面倒見の悪い大学という評価を受ける
- ④大学の経営圧迫

IR センターでは、退学防止に向けた取り組みとして、様々なデータを用いた分析を試みています。

### 2. 退学・留年の現状分析

- ・ 退学率の年次推移
- ・ 学部別退学者数比較
- ・ 学部別退学率の年次推移
- ・ 退学理由と退学理由の年次変化
- ・ 学年別退学理由
- ・ 学部別退学理由
- ・ 退学に至るまでの学籍異動履歴
- ・ 入試制度別退学者数
- ・ 入試制度別退学率と留年率
- ・ 退学者・留年者の入学時学力
- ・ 退学者・留年者の入学時アンケート結果
- ・ 退学者・留年者の学習行動(出席率(学年別)、出席率の授業回数内変化)
- ・ 退学者・留年者の成績(GPA)
- ・ 本学への入試志望順位と退学の相関
- ・ 学部・学科に対する入試志望順位と退学の相関
- ・ 入試制度ごとの大学・学部・学科志望順位
- ・ 入試制度ごとの大学満足度

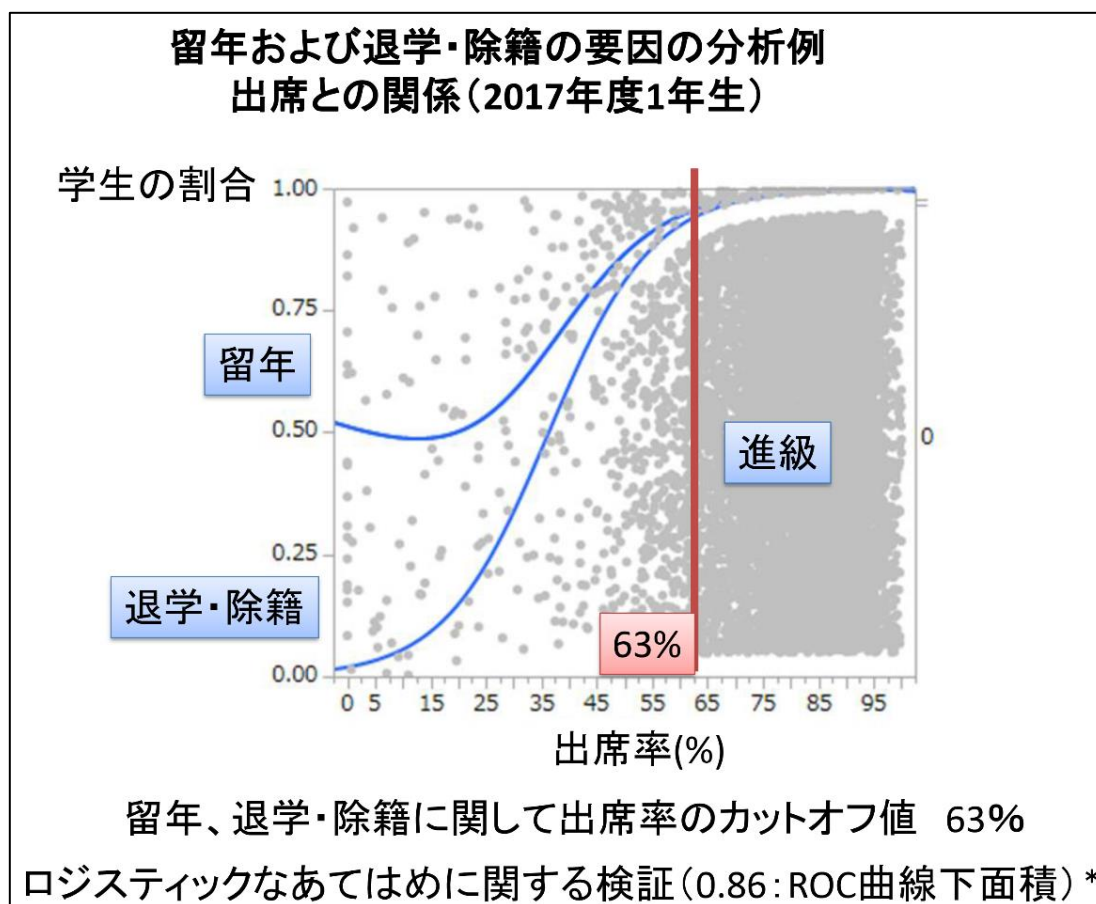
### 3. 分析結果の例

#### (1) 留年・退学に関連する因子

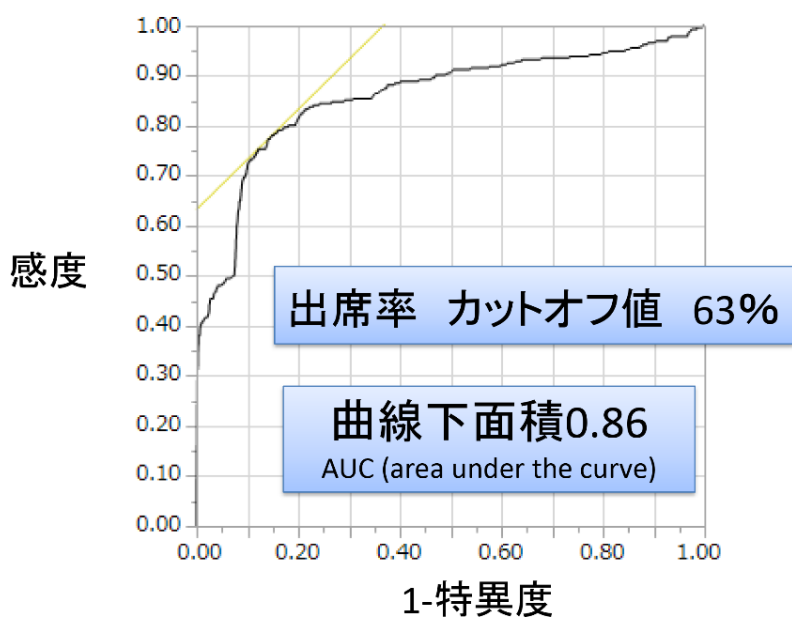
因子	決定係数 R <sup>2</sup>
GPA	0.319
出席率	0.247
出席率増減	0.042
試験区分	0.023
学年	0.019
性別	0.017
出身高校種別	0.005
奨学金	0.004
サークル	0.002

GPA、出席率との相関が、明らかに他の因子に比べて大きいことがわかります。

#### (2) 出席との関係(2017年度1年生)



\* ロジスティックなあてはめに関する検証(0.86:ROC曲線下面積)



出席率 60~70% の範囲は、感度-(1-特異度)が高い

学生の学業の継続に関する分析の例として、授業への出席率を検討した結果です。進級した学生(7972人)の出席率は中央値で80.5%(平均値77.1%)でしたが、留年した学生(192人)の出席率は中央値で44.6%(平均値44.8%)でした。また、退学または除籍となった学生(90人)では、中央値で28.8%、平均値では36.1%でした。進級できるかどうかは、**出席率63%がカットオフ値**となっていました。すなわち、進級した学生の多くが8割程度は出席していたのですが、6割台に低下した学生では、何らかの対応を求められることが明らかでした。その判別の信頼性は、高いものでした(AUC:0.86)。こうした結果を学内のFD・SD等で共有するなどして、学生との面談等の対策に生かすようにしています。

#### 4. 退学防止に向けて

- ・ 退学理由の分析結果からの取り組み
  - ・ 学生への個別面談(GPA、出席率に合わせた面談実施)
  - ・ 学修サポートデスク、学習支援室、オフィスアワーでの個別指導
  - ・ 学内奨学金制度・授業料減免制度の充実
  - ・ 授業改善
  - ・ 設備改善
- ・ 面談による退学率改善効果(分析中)

以上